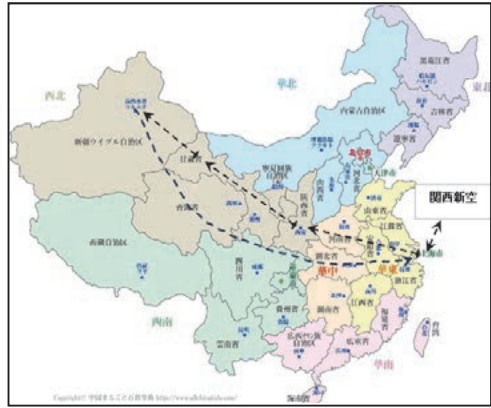


旅を旅する！



クオリカ大阪システムセンタ
井戸川 透

旅は三度楽しめる。
 (一)準備段階
 (二)旅そのもの
 (三)思い出に浸る 三段階である。
 2012年の夏、
 7月5日～12日の7泊8日、
 中国奥地まで訪ねた
 シルクロードの旅について紹介したい。



【一日目】関空から中国東方航空で上海乗り継ぎで最初の目的地
 陝西省西安(唐の都長安)まで飛ぶ。奈良時代遣唐使や修行僧達が命をかけて渡ったのに、
 今は6時間であつと言う間に到着する。便利になったものだ。
 西安の街は外敵から守るため塙で囲まれている。その西の門がシルクロードの起点となる。

【二日目】いよいよバスで西安を見てまわる。まずは世界遺産の兵馬俑である。

1974年始皇帝陵墓の東側の果樹園で井戸を掘っていた
 農民が偶然武士像や馬像の破片を掘り上げた。
 そこには、なんと**6,000体の兵馬俑**が埋められていた。
 発掘は現在も続いている。発見者は、当時健在で
 握手をして**ツーショット写真**まで撮らせてもらった。
 始皇帝陵墓は、西安の北東にある。
 建設当時南北500m四方、高さ81mあり
 日本の古墳のようである。



西安・兵馬俑

大雁塔は、西安市中にありシンボリック的存在である。
 玄奘三蔵がインドから持ち帰った経典を納めた
 7層からなる64mの塔で、上ると西安の街が見渡せる。
 青龍寺は、東南にあり空海も真言密教を学んだ。
 栄枯を繰り返した寺である。現在、境内に空海記念碑
 も建てられている。

夜は、楊貴妃と玄宗皇帝の恋物語を華麗に
 再現した唐歌舞ショーを楽しんだ。
 楊貴妃を演じた役者は観月ありさにそっくりだった。



兵馬俑発見者と井戸川

【三日目】朝一番に遣唐留学生阿倍仲麻呂の記念碑に立寄る。玄宗皇帝が政務をとった興慶宮跡が
 現在公園になっていて、その一角に建てられている。高さ6m、側面に帰国船の難破続きで望郷の念を
 抱きつつ読んだ「天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山にいでし月かも」の歌が彫ってある。
 午後、敦煌行きの飛行機に乗る。敦煌は、ゴビ砂漠の南にあるオアシス都市なのである。
 ここで二泊する。大きなホテルなのだが、節水のためペットボトルがタンクに入れてある。思うように水が流れ
 ないので、夜中調整しなくてはならなくなった。



砂漠と駱駝

【四日目】終日敦煌近郊の砂漠の中の遺跡を見てまわる。
 鳴沙山は、砂丘である。強風に舞う砂の音が太鼓のように響く。
 また歩くとキュッキュと音がする。砂丘は東西40kmにわたって続いている。
 らくだに乗って行く。らくだは気にいらなかつばを吐く。つばは、臭いがきつい。
 麓に月牙泉と言う200m運動場位の三日月の泉がある。
 2000年と言う時を刻みながら絶えることなく湧き出ている。